

**尼崎市教育振興審議会 第2回審議会
議事録**

日時	令和6年6月25日（火）18：30～20：30
開催手法	対面
出席委員	石橋委員、川上委員、北地委員、芹澤委員、時水委員、庭山委員、堀田委員
欠席委員	なし

1. 開会

2. 会議録確認者の指名

3. 審議

・基本理念について

（会長）第1回の審議会でも説明があったように、基本理念の部分は大きく変更する性質のものではないという前提があるが、時代背景を踏まえた用語の更新等は修正の余地があると思う。委員の意見を頂きたい。

（委員）この中でいくしあだけ固有名詞が出ており、他の部分とのバランスの視点から違和感がある。

（会長）固有名詞を使うか使わないかを統一するべきと考えるが、どうか。

（事務局）統一する。

（委員）8ページの右下、「学校・家庭地域社会の役割」について、努めます、という表現が主語述語の関係から見て違和感がある。

（事務局）読み手からすると、強制されているような感じを受けるという意見もあると思う。修正は可能であるため、検討する。

（委員）主語述語の関係を踏まえ、再考頂きたい。

（委員）5ページに「ウェルビーイングの向上」とあるが、国からも示されている上に、OECDからも示されているため、重要性は認識している。一方で、誰のウェルビーイングなのか、を明確にしないでよいのか。「子どもの」や「教職員の」等々。

（事務局）対象を書くとなると、読み手が疎外されていると感じないような表現にする必要があるが、書きぶりも踏まえて、検討する。

（会長）「はじめに」を新設したことにより、「教育の基本方針」が簡素化された感じがする。現行計画の基本方針から一部抜粋したようだが、現行計画と次期計画でボリュームの整合性は取ったほうがよいのでは。

（事務局）第2次計画の策定に向けて、第1次計画から変わった部分や今後の首長との協議なども踏まえて、加筆の検討をする。

（委員）5ページ目で基本方針を示し、その最後の部分で、「3つの柱を基本に据えながら

～、」と触れている。一方で、7ページの人間像と8ページの各主体の役割の話が基本方針の中に位置づけられておらず、前振りなく急に出てきた感じがある。基本方針の中に「～の考え方のもと、進めます」という前振りの位置づけになる表現を入れてはどうか。6ページの3つの柱と7ページの目指す人間像の繋がりが見えにくい。それぞれまっすぐ結びついているようではないので、基本方針に前振りを入れるべきである。

(事務局) 位置づけと相関関係を明確にという指摘かと思うが、再考する。

(会長) 基本理念と目指す人間像、各主体の役割とそれぞれと独立して3つの柱があるということだと思うが、見出しを説明されれば。指摘のように3つの柱がそれぞれ対応もしていないし、とは思う。ぜひ再考いただきたい。

(事務局) 先ほど、8ページの家庭・地域社会の役割の部分について、「努めます」という表現がどうか、とあったが、学校の現場視点からすると、時代の流れとともに地域の役割の低下も課題であると感じているため、努めると表現にしておきたいという思いもある。

・各論1

(会長) 次期計画案について、各論名を現行計画から変更している点も踏まえて意見を頂きたい。

(委員) 就学前教育について、就学前教育ビジョンが策定され、幼稚園等で説明会をしていると思うが、どうしても廃園というマイナスイメージが先行する。その中で、もっと市立幼稚園の良いところを分かるように書いてほしい。たとえば、特別な支援を必要とする子への支援に力を入れ、大事にしているというような思いを書いてほしい。また、就学前教育ビジョンの中で、幼児教育アドバイザーが1つの柱かと思うが、その記載がないことが気になった。

(事務局) 就学前教育ビジョンについては、市内全体の就学前教育を対象としているため、全体を通してのバランスを踏まえながら、頂いた意見を踏まえた書きぶりにしたい。アドバイザーについては記載している3つの柱に組み込まれている。

(事務局) 就学前教育ビジョンは、廃園することが目的ではない。そのため、「中心となつて～」のところをもう少し増強したい。

(会長) 3つの柱の「就学前教育の質の向上」等、どういうことをするかということをもう少し補足してほしい。市のこれまでの主な取組状況を見ていると、市立幼稚園が中心に書かれているので、次期計画にも市立幼稚園の良さを、入れられたら良いのではと多分に思う。ぜひ検討を。

(事務局) 具体的な取組は複数にわたるので、書きぶりについては検討させてもらう。

(委員) 12ページの学力向上について、主要取組項目と成果指標が噛み合っていない。個に応じた学びの実現を測るために、全国学力調査の平均正答率が全国平均以上ということを目指すべきことは、あまりが悪い。たとえば、教育委員会の事務事業評価を見ると、あまっ子ステップ・アップ調査のD層の割合の減少の記載があり、これは学力の底上げを図るん

だというメッセージが感じられる。それと同じように、個に応じた学びが実現されると、どこが伸びるかを考えるべきである。全国平均が動くとも目標が動いてしまうため、全国平均を目標にすることは、成果指標には馴染まないと考えている。体力向上の部分も同様である。最終的にこれぐらいの数値を目指すのだ、ということをも成果指標にしたい。もう少し主要取組項目と成果指標の整合性について検討頂きたい。

(会長) 全国平均を目標にすると、数値が取りやすいのだと思うが、個別最適な学びとなってくると、たとえばこれまで中々発表できなかった子が、タブレットを活用することによって発表できるようになったなど、数値で表せない子どもたちの成果みたいなところを追記頂きたい。体力向上も同様。

(事務局) ご指摘のとおり主要取組項目名と成果指標の整合性は検討するべきと考えている。

(委員) これまでの意見には賛同。平均値というのは誰もいない。そもそも全国学力調査は正規分布をしていないため、平均値を出すことにどれだけ意義があるのかという疑問もある。たとえば、アメリカは公教育の目的は学力保証であるため、D層の減少に着目するといったことをしている。あとは、発展的な学びを見ると、A層の割合を増やすということも考えうると思う。こういった設定をする方が、現場の先生たちも具体的に子供たちの顔も浮かびやすいと思う。体力テストも同様に検討頂きたい。

(委員) 重ねて、今後の取組の方向性と主要取組項目、成果指標が噛み合っていない。たとえば、12ページの「個別最適な学び、協働的な学びによる確かな学力の育成」について、協働的な学びが主要取組から外れているように見える。上手くリンクしていない。13ページの英語の授業についても、「楽しい」ことが成果指標か疑問であり、繋がりが薄い。また、市立高等学校の特色化の部分についても、成果指標で満点を目指している。満点は非常に困難であり、現実的に到達可能な数値を設定すべき。

(委員) 個人的には、成果指標のなかに非認知能力を測るということも入れたい。基本理念の中でも非認知能力に関わる記載がある。5年をかけて、非認知能力を高めるような指標を設定していただきたい。現場の先生はそういう部分も一生懸命教えている。

(委員) 非認知能力の向上は各論のどこで出てくるか。

(事務局) 今は記載していない。

(会長) 成果指標への設定も踏まえて、検討頂きたい。

(会長) 第1回審議会の時も発言をしたが、次期計画案は、各論の表現を変更しているため、市民が見て分かりづらい。サブのタイトルがあっても良いのでは、と思う。

(委員) 学校給食を活用した科目横断的な探究的な学習ということも取り入れてほしい。

(事務局) おっしゃるとおり、残食の課題等もあり、栄養教諭が学校に出向いて食育するなど、取組をしている。具体の表現については、検討する。

(会長) 給食の成果指標がない。学校給食については、子どもたちにアンケートも取っているだろうし、取組に対しての子どもたちの意見を吸収してほしい。それで改善に努めるよう

なことができれば。

(委員) 給食のところ、各市町の話を知っていると、食材費の高騰がある中で、学校給食の水準を維持することに苦労していると思う。安定供給をするというような話は入れておくことも1つと思う。

(事務局) おっしゃるように、物価高騰など、安定供給の課題はある。そういった課題を克服するために、管理栄養士等がさまざまな工夫をしているので、新たに文章を付け加えることについて検討したい。

・各論2

(委員) 不登校支援の中で、多職種連携コンピテンシーの育成とあるが、学校の中で先生方が1人1人にどう向き合うかが一番大事。そこを強化するような文章を入れたい。支援員の声掛け等の取組もあるだろうし、たとえば支援員を増やすなど、日々の学校内の一人一人に対する支援体制が必要と思う。

(事務局) 学校の中での先生方の支援する力を重視することは重要だと思う。多職種連携コンピテンシーと記載しているが、その子に置かれている状況によって様々な視点からアセスメントすることでより適切に対応できるということもある。最終的には、先生に相談しやすい環境づくりが大事と思っている。そこに多方面からの目を、と思い、このような書き方をしている。学校の中でいかに向き合うかを大事にするという土台は変わらない。

(会長) 表現が「学校内の教育相談体制強化」とあるため、子どもたち向き合うという意味合いが読み取れないのだと思う。文言の検討を頂きたい。

(委員) 同じ不登校支援の部分で、「支援を必要とする子どもの長所・強みに着目する視点を重視し、多様な教育ニーズへの対応を目指す」とあるが、具体の文章を見ると体制強化に終始しており、タイトルと内容の整合性がない。

(会長) 全体的に、見出しと詳細の内容のズレがあると思うので、事務局で見直しを。

(委員) 18ページの「市のこれまでの主な取組状況」について、支援員の主な役割は児童生徒への支援だと思うが、保護者への支援も記載している。保護者へはどのようなサポートをしているのか。

(事務局) 学校では主に子どものサポートということで支援員を配置しているが、手紙が読めないときなどは支援員にもお力添え頂いている。やはり学校では子どもが中心ではあるが、保護者支援も課題であり、他局とも連携が必要と考えている。

(委員) 市民の立場で読むとイメージがつきにくい表現がある。たとえば17ページの円滑な移行支援はどのようなことをするか、など文字で追って行っても頭の中で想像しにくい部分がある。市民の実体験と照らし合わせたときに、こんなところが良くなるのかなというようなわくわく感がない。市民としてはもう少しイメージがしやすい表現をしてほしい。

(会長) 今おっしゃったように、具体的な表現の部分と抽象的な表現の部分が混在しているため、余計に抽象的な部分が目立つ。書きぶりを統一してほしい。

(事務局) 計画は作って終わりではなく、手に取って読んで頂かないと始まらない。また、計画は未来のことを謳い上げるものでそこに向かって皆でやっていくものなので、これからの夢を感じさせるようなものにしたい。

(委員) 内容が伝わればわくわくすると思う。一生懸命考えていることは伝わってくるが、これを市民委員として、自分で説明しようとする、この表現では説明しづらい。今まで不自由におもっていたことが無くなる！ということがあれば。

(委員) 主要取組項目はこれ以上に具体的ににならないということか。これがもう少し具体的になると、と思うが、このレベルでストップするか。

(会長) 主要取組項目が限定されすぎという意見だと思う。修正をお願いしたい。

(委員) 17 ページの特別支援教育の主要取組項目について、市でたくさんの取り組みをしているにも関わらず、主要取組項目が合理的配慮だけに見えるので、そこは再考頂きたい。

(事務局) 教員の専門性向上に向けた研修の充実や学校園を訪問するなど具体的な取組をしている。入学前に子どもの様子を聞き取りをしてそれを入学後に検証するといったこともしている。そういうことも追記したい。

(委員) そもそも論になるが、各論2が多様性と包摂性のある教育の推進と銘打っている。その中身がどちらかというと不登校支援や特別支援教育など、ニーズのある子たちにどうするかという部分に終始している。本来、多様性と包摂性を考えると、通常教育がどう柔軟になっていくか、ということが非常に重要になり、このまま個別に支援をし続けると追いつかない。各論1と3は子どもの側面に着目した各論名である一方、各論2だけどんな教育をするか、ということが表れた各論名になっており、この各論が各論1、3とどう結ぶ付くか、が非常に重要である。その観点でみると、学びの多様化学校のフラッグシップとしての役割は、良いことだと思うが、ここでの実践は、不登校以外にも活かすべきであり、こういったことが先ほど指摘のあったわくわくに繋がるのだと思う。

(事務局) フラッグシップ校としての実践は学校における多様性を先生方がいかに認めながらより適切な支援をするかに繋がるので、しっかりやっていきたい。

(会長) 各論2と各論1、3の関連性を注釈等で説明を。

・各論3

(委員) 時代の変化のなかで、ICTやSNSの問題を入れてはどうか。ゲームや携帯を夜中まで触っているといったことが課題になっているため、SNS等との良い関わり方を育てるということを入れないといけない。もう1つは性教育をこの中に入れるべきである。SNS等との関連もあり、正しい知識を教えて、自他の性を認め、自己肯定感を高めることが必要である。

(事務局) ネットに関わる課題は、大学と連携し、大学生による講演会や出前授業をしている。こういうことを記載するようにしたい。性教育については、19 ページに記載している講演会で3年間で3つのテーマを学んでいる。また、医師会や薬剤師会と連携し、具体的な性教育の授業の研究をしている。そのあたりも踏まえた文章としたい。

(委員) 19 ページ、取組の方向性と成果指標がかみ合っていない。この指標は 21 ページで使っても良いのでは。代わりに 19 ページの指標は検討する必要があるが。

(会長) 県でやっているアンケート等も指標として活用してほしい。

(委員) 19 ページの成果指標、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと答えた児童生徒の割合」について、すでに 100%に近い。私が子どもを通して、周りのいじめを見ると、主犯格になるような子は、指導を受ける時に、いじめはいけないとわかっているし、今後どういうことをしてはいけないか、も分かっている模範解答のような答えが返ってくる子が多い。そうした中、いじめを減少させていくには、この数値を目指すことは概ね役割を果たしている。学校でも積極的に授業をしているため、このままでも上がるだろう。理解しているのに、いじめをしてしまう子にフォーカスをする必要がある。

(事務局) おっしゃるように、理解しているけど、やってしまうところに大きな課題がある。指標については、どういうものが良いのか検討していきたい。

(会長) いじめ防止に係る成果指標について、感覚的に○をつけるような指標ではなく、授業の振り返り等の自由記述を捉えられれば。

(委員) 今の話に関連して、規範意識の向上といじめや非行はあまり関係がない。問題はやはり分かっているけどやってしまうことが問題。規範意識の向上と実際の行動とは結びつかなかったりする。加害に至る子はそれまでに何度も指導されており、理解していたりする。やはり、実践的行動力を養成することが重要。各論 1 の部分で非認知能力が話題に上がったが、もし入れるのであればこの各論 3 に入れるべきかと思う。もう 1 つ、各論 3 はいわゆる生徒指導に関わる部分だが、2022 年に改定された生徒指導提要で、課題に対して、予防的に指導することが色濃く打ち出されている。その観点で見ると、今の計画案は予防的な部分が薄い。スクールロイヤーもリアクティブなので、予防的なところを強く打ち出しても良いのでは。

(会長) 実践的行動力を育成するといったところが指標で示されれば良いと思う。

(委員) 21 ページの右側の部分、先生方の感度の向上に係る記載があるが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと答えた児童生徒の割合」が上がってきている一方で、いじめの認知件数が増えており、裏腹になっている。いじめの成果指標を考える際は、その整合性が上手く取れるといいと思う。

(事務局) いじめの認知件数の増加は、先生方が子供たちに寄り添っている結果だと考えている。それが、読み手にも伝わるような書きぶりにしたい。

(委員) スクールロイヤーは市民としては非常にインパクトがある。具体的にどのような形で介入されるのかがイメージされるような書きぶりにしてほしい。

(会長) 役割を追記すれば良いのでは。

(事務局) 火種が小さい間に、介入してもらうことが子供たちにとって良いと思っているので、そのあたりを書きたい。

・アンケート

(委員) Q12 と Q13 で生涯学習の問いがあり、言葉の定義を書いているが社会教育が依然として抽象度が高い。Q12 と Q13 を上手く組み合わせて表現を工夫するべき。

(委員) Q8 について、これは 1 つだけの選択か。

(事務局) 1 つである。

(委員) それで良い。どれも選択したくなるので。

(会長) 「最も」や「特に」と入れるべき。

(会長) Q9 の⑦指導体制整備は表現が分かりづらく、○がつけにくいのでは。また、Q10 の⑩デジタル採点システムも市民のみなさまが分からないのでは。スクールソーシャルワーカーも注釈を入れるように。

(事務局) 用語集のようなものを足す。

以 上